

4、景観の概要

知床半島の景観特性はアイヌの人々が畏敬の念を込めて呼んだ『シリエトク＝大地の果てるところ』で表現される原始性にある。

その立地条件の故に、最小限の人為的影響を除き、海岸線から半島の脊稜を形成する高山域（標高1300～1600m）まで連続的に原生的環境が保持されているのは、北海道でも一部の島嶼を除き本地域が唯一の地域と言える。

〔地形景観〕

地形的に見ると、半島全体が千島火山群に属する脊稜山脈（知床火山群）によって占められている。この山脈は、半島基部の海別岳（1419m）から始まり、最高峰羅臼岳（1661m）を経て硫黄山（1563m）、知床岳（1254m）に至り、知床岬の海岸段丘となってオホーツク海に没している。（写真－4、5）

これらの火山群による地形景観は、北海道の火山景観よりも千島の島々に類似する特徴を有しているといわれる。

山麓部の溶岩流は直接波浪に洗われ、30～200メートルの海蝕崖を形成し、豪壮な海岸景観を呈するとともに、脊稜山脈から流れ落ちる河川は、いずれも流路が短く勾配が急峻でV字形の溪谷をなし、多くはそのまま海蝕崖上から滝となって海に流れ落ち、知床特有の景観を形成している。（写真－6）

また、山群の鞍部や海岸近くの溶岩台地上には、羅臼湖や知床五湖のほか小さな湖沼が点在し、周囲の森林や高山植物の花ばなを水面に映し、原始的な景観にやわらぎと変化をもたらしている。（写真－7）

本地域は、半島部の脊稜では最も標高の低い「ルシャ・ルサ越」（標高300～350m）を擁し、海岸から山稜まで比較的緩傾斜の山並みとなっている。また、半島西側では唯一の礫浜が広がっており、この浜に注ぐルシャ川、テッパンベツ川の流域は知床では比較的大規模なものであり、また、人的影響をほとんど受けていない原生的流域を形成している。

この山並みとこれを縫って蛇行する河川が存在が、知床半島では珍しい穏やかな景観を示している。（写真－8～12）

〔植生景観〕

このような立地条件の故に、標高0mの海岸線から標高1660mの高山まで、半島部の植物相は極めて変化に富んでいる。

海岸部の植物景観で特徴的なものは、海岸傾斜地や溶岩台地上に見られるクマイザサ類や高茎草本からなる草原景観と海浜断崖に咲く高山－寒地植物であるユキワリコザクラ、シコタンハコベ、チシマフウロ、ミヤマオダマキ等々の花ばなである。

また、規模は大きくないが、海浜草原には短い夏の間、ハマナス、ハマエンドウ、ウンランなどの花に彩られる原生花園が出現する。

知床の原始的景観を形作る大きな要因は森林である。海岸から標高 600m ほどの山麓は、エゾマツ、トドマツからなる針葉樹林、ミズナラ、イタヤカエデ、ハルニレ、カツラ、ヤチダモ等々の豊富な樹種によって構成される広葉樹林、あるいはこれらの樹種が混じる針広混交林の深い森に覆われている。

この鬱蒼とした森林は、アイヌの人々が最高神として崇めたシマフクロウやヒグマの生息域であり、見る者に畏怖・畏敬の念を抱かせる。

この森の上部、標高 600～700 m ほどまではダケカンバのほぼ純林となり、ハイマツ群落から山頂・稜線の高山植物群落へとつながっている。

ハイマツ群落は、半島先端部では標高 400m ほどの低地でも出現し、豊富な高山植物のお花畑と共に知床特有の景観を形成している。

また、知床の高山植物の象徴であるシレトコスミレは、知床山系の固有種である。

本地域では、海岸の砂丘植生、風衝草原から高山帯のコケモモ～ハイマツ群集まで多様な植生がモザイク状に見られる。

特に本地域の約 4 割を占める針広混交林は、北海道の代表的な森林形態であり、山腹を広く覆う樹林は、過去に一部施業がなされたとはいえ、知床の豊かな自然の象徴的景観としてその存在を誇っている。（写真－13、14）

〔季節の変化と動物景観〕

豊かな自然の四季折々の変化も、知床の景観の大きな魅力である。

遅い雪解けの春、一斉に芽吹く緑の輝きと色とりどりの花ばなを背景として、キタキツネやエゾシカの仔連れの姿を間近に見られるのも、知床の原始性の故である。

高山植物の咲き乱れる夏は短く、8月の下旬にはカラフトマスが産卵のため河川を遡上し始める。

自然産卵の可能な河川は、本地域においてはルシャ、テッパンベツ、ポンベツの3河川であるが、これらの川を遡るサケ・マスの大群は壮観である。（写真－15～18）

木々の紅葉と山頂からの白雪がせめぎ合う秋には、サケマスをねらってヒグマ、オジロワシ、オオワシやシマフクロウが河口付近まで姿を現す。

海も山も白銀の世界に閉ざされる冬の知床は、梢を渡る風の音と、流水の軋みだけが支配する静寂なモノトーンの世界となり、人を拒絶する冬の知床に、本来の原始の息吹が甦る。

アムール河口で生まれた流水は、風と海流に乗ってオホーツク海を南下し、1月下旬ころには半島の斜里側の海を埋めつくす。

流水と共に多くのオオワシ、オジロワシが飛来し、アザラシ類が姿を現す。
流水がゆるみ、青い海面が広がり始める「海開け」は4月も半ば過ぎのころである。

(写真-4) 知床半島の脊稜山脈



(写真-5) 知床岬の海岸段丘



(写真-6) 海蝕崖から海に落下する滝



(写真-7) 知床五湖



(写真-8) 調査地の山並みと蛇行するルシャ川



(写真-9) 調査地遠景 [海岸平坦地とルシャ・テッパンベツ河口]



